

冬に向けて、カイロ(回路)の準備を

秋も深まり、段々と肌寒くなってきました。寒さ対策に、これから加湿器やエアコン、足温器などの暖房機器を多く利用する場面が増えてくるでしょう。そんな時にブレーカがトリップして停電してしまった、などと昨シーズンに体験していませんか？安全に、かつ快適に過ごすためにも今、冬に向けて準備をはじめましょう。

例えば、冬になって足温器(ハロゲンヒーター)やエアコンなどを使用するとブレーカがトリップしてしまう！

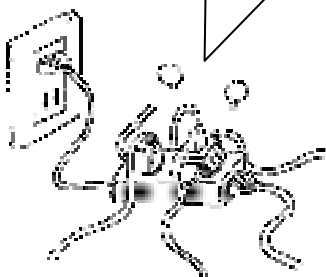
分電盤の主幹容量のアップと、回路数の増設をおすすめします。

過電流（過負荷）によるブレーカのトリップとされます。昔に比べて電化製品の数も使用する電気容量も大きくなっていますので、電気の利用状況に応じて回路数の増設、及び分電盤の主幹容量アップをすることをおすすめします。

タップにタップを接続していませんか？

過負荷の原因のひとつとして、テーブルタップにいくつものタップを接続して、そこに消費電力の高い電化製品をいくつも接続して使用していること（たこ足配線）が考えられます。タップは受け口が2つでも3つでも許容電流が決まっています。このタップの電気容量の限度を超えて使用すると過熱の原因にもなり大変危険です。タップに記載されている電気容量を超えないように使用しましょう。

決まっている電気容量を超えると、過熱して火災の原因になることも！



過電流とは

過電流は、大きく分けてショート（短絡）と電気の使いすぎ（過負荷）の2種類があります。

ショート（短絡）とは、屋内配線や電気機器の電源コード（電路）において、間違った配線接続・故障などが原因で、2線間が接触したり、2線間の絶縁抵抗が極端に低下した時に、配線や電気機器に危険な電流が流れることをいいます。またショート（短絡）により流れる電気を短絡電流といいます。

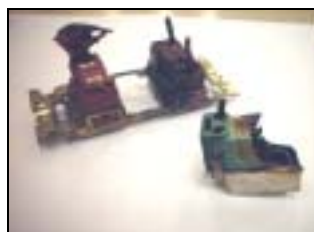
電気の使いすぎ（過負荷）とは、エアコンやコピー機、コーヒーマーカーなどの電気製品を一度に多く使い、配線に許容量以上の大きな電流が流れることをいいます。

配線器具の寿命

1月11日は配線器具の日です。配線器具も長い間使っていると、熱・湿気やほこりなどの影響や、使用する度合いによって部品の劣化や器具の故障、時には事故につながることもあります。器具の取り付け場所や使用状況によって異なりますが、一般的に設置後10年を経過した配線器具が寿命点検の目安です。ですが下記の場合は短寿命の原因になりますので、早期点検・交換をすることをおすすめします。普段から定期的に点検をし、性能維持をしていきましょう。

配線器具における短寿命の原因

- コンセントの定格容量いっぱいの使用
- ほこりが多い場所での使用
- スイッチの使用頻度が著しい
- プラグの抜き差し頻度が著しい
- 塩気や油蒸気が多い場所での使用
- 高温場所での使用
- 低温場所での使用



壁スイッチの配線接続部分が焼損し黒こげに。

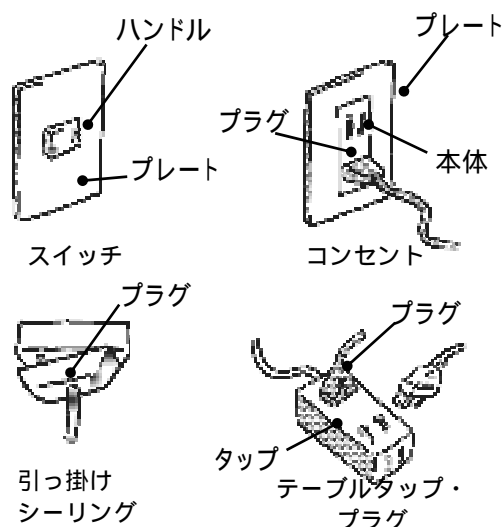


スイッチプレートとボックスが焼けて変形している。

配線器具点検チェックリスト 日本配線器具工業会点検 チェックリストより一部抜粋

異常なしの場合は○、異常がある場合は×をチェック欄に記入しましょう。

使用状況		チェック
壁スイッチ	ハンドルやプレートが熱い	
	ハンドルの動作が異常に軽かったり、重かったりする	
	ハンドルやプレートに変色、膨れ、ヒビ割れなどがある	
コンセント	本体やプレートなどが熱い	
	本体やプレートに変色、膨れ、ヒビ割れなどがある	
	プラグの抜き差しが極端に弱くなった(ゆるくなった)	
	ほこりが付着しており、清掃してもほこりが取れない	
引っ掛けシーリング	樹脂に変色、膨れ、ヒビ割れなどがある	
	プラグがきちんと入らない	
テーブルタップ	プラグやコードが熱い	
	プラグ・コードやタップに変色、膨れ、ヒビ割れなどがある	
	プラグの刃が変形している	
	プラグの刃の根元の樹脂が変色したり、溶けたり、焦げている	



(点検結果の判定)

チェック欄に×印が1個でもあれば、その配線器具は劣化状態が相当進行し、危険な状態に至っていることがあります。

チェック欄に×印が1個でもあればその配線器具は劣化状態が相当進行しています。お気軽にご相談ください。TEL:043-295-1151